

# THE RECORD

RIAJ 社団法人 日本レコード協会

平成8年12月1日発行

RECORDING INDUSTRY ASSOCIATION OF JAPAN 〒104 東京都中央区銀座7-16-3 Tel 03-3541-4411(代)  
Fax 03-3541-4460

平成8年12月号 No.445



D. ファイン議長

11月6日、帝国ホテルにおいて、IFPI（国際レコード産業連盟）の理事会が開催されました。東京では11年振りの開催となります。世界の6大レーベルの代表者と筆頭取締役、ヨーロッパ地域理事会、アジア／太平洋地域理事会、中南米地域、RIAAの各代表者、フランス、ドイツ、日本、イギリスの各代表者、独立系の会社4社の各代表者、そしてIFPI議長と事務総長から成る合計26人の理事会メンバー中、今回の理事会には21名の理事及びオブザーバーが参加しました。IFPI理事会は、事実上、IFPIの活動方針を決定しており、その活動のため、世界のキー・マーケット

## IFPI理事会 11年振りに東京で開催

ト、あるいは、その時々に対応すべき課題を有する地域の中から開催地を決定しています。

今回の理事会では、世界各国／各地域のセールズ／法律／海賊版等の状況の報告、最新技術への対策状況の報告と検討、国際的な法律問題の報告と検討、IFPIの機構の検討等が行われましたが、その中でも、WIPOにおける「著作権保護に関する条約」と、「実演家とレコード製作者の保護に関する条約」の検討の進捗状況の確認と、今後の検討に対するレコード製作者の立場の検討に時間が費やされました。

デジタル環境の下、ネットワークを利用した情報社会において、レコードの利用形態は現在までのそれとはかなり変わってくるのが予想されることから、とくに両条約に対する議長条約案で、レコード製作者の保護が拡大される方向が示唆されている部分についてはそれを支持し、意見の分かれているところ、消極的な条約案については、レコード製作者の意見を積極的に提案していく必要

があることが確認されました。IFPIの意見で特出すべき点は以下のとおりです。

**複製権**  
恒久的か一時的かを問わずあらゆる方法及び形態による複製について、排他的権利を認める議長案を支持しながら、この権利の制限は最小限に止められるべきであることを明確にし、かつ、レコード製作者が認めた場合にのみ使用が許されるものとし、法によって認められた場合にまで権利の制限を拡大すべきではない。

**利用可能にする権利**  
双方向型の送信サービスのみならず、これと同等の効果をもたらす大規模マルチ・チャンネル放送サービスも



理事会

含めて、このようなサービスにレコードを利用可能とする排他的権利が認められるべきである。

### 技術的手段に関する義務

コピー・コントロール技術を迂回してコピーを可能にするような機器等に関する議長提案を支持するが、このような機能が主たる目的／効果である場合に限らず、副次的な目的／効果であっても、情を知って製造・頒布・輸入等をする行為も罰則の対象とすべきである。

### 頒布権と輸入権

頒布権と輸入権が新条約に規定されるべきで、議長提案で選択肢として用意された国際消滅を伴う頒布権には反対する。

今回、東京でこの理事会が行われた背景には、WIPOにおいて、国際的なレベルで実演家とレコード製作者の保護の在り方が検討されている中、日本政府に対し、国際調和の観点から、理事会でも確認されたレコード製作者の保護に関するIFPIの基本理念に理解を求める機会を得たいとの考えがありました。

そして、理事会で確認された方針に基づき、理事会が行われた日の午後、当協会の会長を含むIFPIの幹部は、文化庁と通産省を訪問し、世界のレコード製作者に共通する問

題と、日本のレコード産業に直接関わる問題について意見を交換し、IFPIの考え方を示す文書を手渡しました。

### IFPI共同記者会見開催

IFPI理事会終了後の11月6日午後5時より、帝国ホテル竹の間において、IFPI（国際レコード産業連盟）、RIAA（米国レコード協会）、当協会の三者による、IFPI理事会に関する共同記者会見が行われました。

出席者は、D. ファイン（IFPI



共同記者会見

IFPI理事会議長、N. ガーネット（IFPI事務総長、J. バーマン（RIAA会長）、高野宏当協会会長、木村三郎当協会専務理事の5名でした。

### IFPI歓迎レセプション開催

11月6日午後7時より、東京都港区の八芳苑において、当協会主催によるIFPI（国際レコード産業連盟）の歓迎レセプションが盛大に開催されました。

この催しは、IFPI理事会出席のため来日中のIFPI理事会の方々をご招待し、開催したものです。

会には、関係国会議員の先生方、関係諸官庁、関係団体の代表者、関係者等、90名近い方々にご出席いただきました。

高野宏会長の歓迎の挨拶にはじまり、D. ファインIFPI理事長、J. バーマンRIAA（米国レコード協会）会長にご挨拶をいただき、吉田茂文化庁長官に乾杯のご挨拶と乾杯のご発言をいただきました。

また、日本語で製作されたIFPIの紹介ビデオの上映や、日本音楽集団の方々等による華麗な歌と踊りの披露等があり、華やいた会となりました。

会見では、世界のレコード産業が、デジタル化、ネットワーク化時代に対応するために必須となる送信権、輸入権に関して言及されました。

ました。

なお、政務ご多忙の中、小野清子、小林興起、島村宜伸、西岡武夫（代理）、村上誠一郎、与謝野馨（代理）の国会の先生方にご出席いただきました。



歓迎レセプション

## 全国福祉・更生施設へレコード寄贈

当協会は、今年も、全国の福祉・更生施設へレコード（CD、カセット）を寄贈しました。

この事業は、全国の福祉・更生施設の皆様に、より広く、多くの音楽を聴いていただき、生活に潤いをもつていただくことを願い、昭和38年から毎年続けている事業で、今年で34回目となります。

寄贈は、全国五〇か所の児童保育施設、心身障害者、老人ホーム等の福祉・更生施設に対して行われ、レコード会社の本社、営業所、支店所在地のうち1か所（今年は、北海道、宮城県、石川県、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、神戸市、広島市、香川県、福岡県の代表施設）へは、各地区のメーカー会と日本レコード商業組合各支部の協力で直接訪問して寄贈、その他の施設については、日本民生文化協会を通じて行いました。

また、東京地区では、11月14日に文京区の龍岡老人保健施設を訪問して実施しました。当日は、ポニーキャニオン専属の石井聖子さんが、東京十日会（メーカー会）、日本レコード

商業組合東京支部、当協会の関係者と共に訪問し、代表の方に、CD・音楽テープを手渡しました。

なお、寄贈の地域別施設数は、以下のとおりです。

北海道10、東北54、北関東76、東京38、南関東14、中部36、北陸23、近畿83、四国17、中国51、九州89、沖縄9。



## まなびピア'96 福岡で「不正商品 防止フェア」開催

当協会が会員となっている不正商品対策協議会は、11月6日〜10日の5日間、福岡市のマリンメッセ福岡会場で開催された、第8回全国生涯学習フェスティバルに出展参加し、ためため!!ニセモノには気をつけてのテーマで、ほんと?ホント!フェア in福岡コーナーを設置しました。コーナーでは海賊版CD・テープと真生品を比較展示し、併せて、カラオケ教室での無断コピー防止を訴えたチラシを入場者に配布し、著作権意識の啓蒙を図りました。

その他協議会会員団体の海賊ビデオ、ブランド商品、アーチストレカ、Jリーググッズ、デイズニーぬいぐるみ等多数のホンモノ・ニセモノが展示され、来場者は解説員から見分け方などについて説明を受け熱心に聞き入っていました。

その他、著作権に関連するクイズを連日実施し、不正商品に対する知識を広め、知的所有権の大切さを学んでもらうことができました。

なお、来年度新潟市で開催されるまなびピアにも出展予定です。

## ミラノで国際統計 会議開催

去る11月15日、ミラノの「ホテル・プリンチッペ・デイ・サボイア」においてIFPI（国際レコード産業連盟）主催で「第6回国際統計会議」が開催されました。この会議には、各国の統計実務担当者19名が参加し当協会からは山本職員が参加しました。

会議では、各国における音楽市場と96年度の予測の発表、現行または計画中の調査/プロジェクト、各国のチャートシステムの説明の他、IFPI統計委員会が作成した標準報告マニュアルの発表と討議が行われ、ガイドラインを作成することにより世界全域で報告基準を統一することに合意しました。

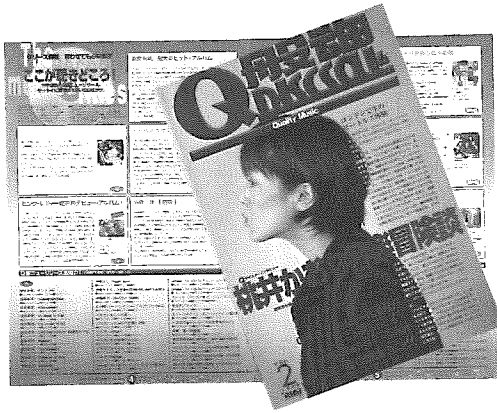


## Q盤魂2号完成

店頭用のQ盤PR誌『Q盤魂』のVol. 2が完成しました。

今回の『Q盤魂』では、保存版として、平成8年12月発売までのQ盤全タイトルのアーティスト名、タイトル名、品番・価格、メーカー名を掲載しております。

また、販売店用のキットとして、11月にこの『Q盤魂』の他、チラシ、店頭用ポップ、応募ハガキを配布いたしました。



## レコード用文字符号規格の 制定・発行

当協会技術委員会（委員長・富塚理事）では、日本レコード協会規格「レコード用文字符号」（RIS506）を11月12日付で制定・発行いたしました。

この規格は、MD、DCC、CDエクストラ、CDテキスト、更にはDVDなど「文字情報」を記録・再生することができるパッケージメディアに共通に使用することができる「文字符号」を規格化したものです。

通常、レコード会社などにおけるレーベル・コピーやISRCデータの作成には、パソコン用ワープロ・ソフトが使われておりますが、このソフトには幾つかの種類があるため、各社間のデータ交換や再生機器との適合性に問題があり、既存のデータのままで、パッケージに記録することができません。

このため、レコード会社などにおけるソフト制作時に共通に使用でき、かつ、日本語の文字表示機能を持つ再生機器に適合するよう「文字符号」を統一化したものです。

なお、この規格作成に際しては、

各社の制作部門から寄せられたレコード業界固有の記号・符号の類を取り入れております。

また、この規格は「Music Shift JIS Kanji Character set」として、既にCDエクストラ、CDテキスト規格に採用されております。

### ■代表者交替について

当協会会員社の㈱ポニーキャニオン

ンにおいて左記の通り代表者の交替がありましたのでお知らせいたします。（10月14日付）  
新任……稲葉 昭典氏  
退任……伊地知 彬氏

### ■社名変更について

BMGビクター株式会社は、平成9年1月1日付をもって社名を「株式会社BMGジャパン」に変更いたします。

### ■お知らせ

当協会は、特別業務部の全国7調査室のうち、岡山調査室を11月30日付で閉鎖いたしました。なお、同調査室の管轄であった中国・四国地区は、引き続き大阪調査室が担当いたします。

## 「THE RECORD」 リニューアルのお知らせ

1956年7月に創設以来、長年皆様にご愛顧いただきてきました当協会機関誌「THE RECORD」ですが、次号1997年1月号（通巻456号）より、B5版縦組の紙面をA4判横組に変更することと致しました。また、これを機に一層の誌面の充実をはかる所存です。今後ともご愛読の程よろしくお願ひ申し上げます。

（広報室）

## 日本レコード協会ヒットチャートデータによるランキング

平成8年10月度(96年9月21日~96年10月20日)のヒットチャートデータがまとまりました。これによる各ランクの5位までは次のとおりです。

順位	タイトル	アーティスト	発売元
<b>■邦楽・洋楽合同シングル BEST 5</b>			
1.	save your dream	華原朋美	(PI)
2.	これが私の生きる道	PUFFY	(SME)
3.	恋心	相川七瀬	(CT)
4.	最後の嘘	松任谷由実	(TO)
5.	BODY-CATION	久保田利伸	(SME)
<b>■洋楽シングル BEST 5</b>			
1.	チェンジ・ザ・ワールド	エリック・クラプトン	(WJ)
2.	ワナビー	スパイス・ガールズ	(TO)
3.	あなたにいてほしい	スウィング・アウト・シスター	(MME)
4.	TO LOVE YOU MORE	セリーヌ・ディオーンwithクライスラー&カンパニー	(SME)
5.	ブーン・ブーン・プギ	スノー	(EW)
<b>■邦楽・洋楽合同アルバム BEST 5</b>			
1.	MISSING PIECE	氷室京介	(PO)
2.	愛すべきすべてのものに-YUTAKA OZAKI BEST	尾崎 豊	(SME)
3.	ORIGINAL TRACKS VOL.1	安室奈美恵 with SUPER MONKEY'S	(TO)
4.	FIELD OF VIEW II	FIELD OF VIEW	(ZA)
5.	球体の奏でる音楽	小沢健二	(TO)
<b>■クラシックアルバム BEST 5</b>			
1.	諏訪内晶子デビュー	諏訪内晶子	(MME)
2.	恋人達のクラシック「ロング・バケーション」より	オムニバス	(SME)
3.	ピエ・イエス II	オムニバス	(PG)
4.	神童<幻>のヴァイオリニスト	渡辺 茂夫	(TO)
5.	アダージョ:カラヤン	ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮/ウィーン・フィル	(PG)
<b>■洋楽アルバム BEST 5</b>			
1.	グレイテスト・ヒッツ	ヴァン・ヘイレン	(WJ)
2.	SPICE	スパイス・ガールズ	(TO)
3.	DANCEMANIA3	E-ROTTIC他	(TO)
4.	シスターズ・オブ・アヴァロン	シンディ・ローパー	(SME)
5.	Travelling Without Moving~ジャミロクワイと旅に出よう~	ジャミロクワイ	(SME)

※日本コロムビア(C)/ビクターエンタテインメント(V)/キングレコード(K)/テイチク(TE)/ポニーレコード(PO)/東芝EMI(TO)/日本クラウン(CR)/徳間ジャパンコミュニケーションズ(TJC)/ソニー・ミュージックエンタテインメント(SME)/マーキュリー・ミュージックエンタテインメント(MME)/ポニーキャニオン(PC)/ワーナーミュージック・ジャパン(WJ)/バンダイ・ミュージックエンタテインメント(BME)/フォーライフレコード(FL)/バップ(VAP)/トラスレコード(TA)/ポリスター(PS)/アルファミュージック(AL)/キティエンタープライズ(KT)/ファンハウス(FUN)/イーストウエスト・ジャパン(EW)/BMGビクター(BV)/NECアベニュー(NA)/メルダック(ME)/TDKコア(TDK)/トイズ・ファクトリー(TF)/バイオニアLDC(BL)/MCAビクター(MV)/ロッキットレコード(RO)/エイベックス・ディー・ディー(AVT)/ヴァインレコード(ZA)/ルームスレコード(BM)/ビーグラムレコード(BG)/ワン・アップ・ミュージック(EP)/カッティング・エッジ(CT)/ヴェルファーレ(VF)/パルコ(QT)

## 10月度「ゴールド・アルバム」他認定作品

10月度のゴールド・アルバム他が次のとおり認定されました。

### ■アルバム (19作品)

#### 【邦楽】

- ◆3ミリオン  
BACK BEAT's #1/大黒摩季(BG)
- ◆トリプル・プラチナ  
SINGLES/T-BOLAN(ZA)
- ◆ダブル・プラチナ  
MISSING PIECE/氷室京介(PO)  
by myself/hitomi(AVT)
- ◆プラチナ  
愛すべきすべてのものに-YUTAKA OZAKI BEST  
/尾崎 豊(SME)  
MONTAGE/YEN TOWN BAND(SME)  
ORIGINAL TRACKS VOL.1/安室奈美恵 with  
SUPER MONKEY'S(TO)  
FIELD OF VIEW II/FIELD OF VIEW(ZA)  
球体の奏でる音楽/小沢健二(TO)  
MTV UNPLUGGED LIVE/  
CHAGE&ASKA(PC)  
パラダイス・カフェ/中島みゆき(PC)  
chartered/dos(PI)

#### 【洋楽】

- ◆プラチナ  
グレイテスト・ヒッツ/ヴァン・ヘイレン(WJ)  
SPICE/スパイス・ガールズ(TO)  
Travelling Without Moving ~ジャミロクワイと  
旅に出よう~/ジャミロクワイ (SME)
- ◆ゴールド  
DANCEMANIA3/E-ROTTIC他(TO)  
シスターズ・オブ・アヴァロン/シンディ・ローパー  
(SME)  
Shall we マカレナ?/ロス・デル・リオ(BV)  
インスピレーション/イングヴェイ・マルムスティ  
ン(PC)

### ■シングル (16作品)

#### 【邦楽】

- ◆ミリオン  
アジアの純真/PUFFY(SME)
- ◆ダブル・プラチナ  
save your dream/華原朋美(PI)
- ◆プラチナ  
これが私の生きる道/PUFFY(SME)  
恋心/相川七瀬(CT)  
最後の嘘/松任谷由実(TO)  
YELLOW YELLOW HAPPY/ポケットビスケッ  
ツ(TO)  
SWEET 19 BLUES/安室奈美恵(AVT)  
LOVE BRACE/華原朋美(PI)  
BODY-CATION/久保田利伸(SME)  
どうしようもない僕に天使が降りてきた/横原敏之  
(WJ)  
鏡のドレス/酒井法子(V)  
DNA 川本 真琴(SME)  
素顔のままで/Get Wild/ZERO(BV)  
情熱/UA(V)  
GET MY LOVE!/MAX(AVT)

#### 【洋楽】

- ◆トリプル・プラチナ  
あなたにいてほしい/スウィング・アウト・シスター  
(MME)

# 世界の話題

## FLAPF、海賊版対策にホログラム

### ■ブラジル

IFPI (国際レコード産業連盟) の賛助団体であるFLAPF(ラテンアメリカ・レコード協会) は、ラテンアメリカ全土でCDと音楽カセット全てにホログラムを導入し、海賊版対策に用いることを発表しました。これは、業界が同地域での海賊版対策への500万米ドルの投資から賄われます。

ホログラムは、世界各国の海賊版対策で成功を収め、熱望されていた手段ですが、このように広域で活用されるのは初めてです。

FLAPFのロゴ入りのホログラムは、1億8,500万枚製造され、今年末か来年早々にもラテンアメリカ全域のCDと音楽カセットに貼付されます。

同地域では、海賊版が、レコード産業にとって長年大きな問題でした。昨年の推定損害額は3億米ドルで、ブラジルとメキシコは世界の海賊10大国に入っており、海賊版の多くはカセットで全市場の73%を占め、海賊CDは僅か3%です。

今年7月からFLAPFは、IFPI及びRIAAと協力して同地域での海賊版対策を開始し、今回のホログラムの導入は第2段階です。

今までの海賊版対策の成果は以下の通りです。

- ①1,000回以上の手入れ
- ②800万巻のカセットと11万5千枚のCDの押収

(1,600万米ドル相当)

③海賊版に関係する169の工場と130の倉庫の閉鎖

④約500人の刑事裁判を進行中  
(IFPIプレス '96.11.13)

## 英国著作権法の承認

### ■イギリス

1996年著作権及び、関連する権利の規定は、11月6日、下院での最終討論で承認されました。政府は、この規定によって最も影響を受ける関係者に積極的に連絡を取ろうとしませんでした。

この10年間で最も重要だと思われるこの規定は、レコード業界のロビー活動にも拘らず、下院の討論の間、改定されませんでした。

国際マネージャー・フォーラム(IMF)、英国音楽家組合(MU)、レコード演奏権料徴収団体(PPL)は、店舗やバーでラジオやテレビから流れる音楽に対する使用料を求める案を提出していました。店舗やバーのオーナーは、レコード演奏の対価を支払うが、テレビやラジオを経由する音楽については支払わないと主張しました。

新規定は、EUが各国政府に店舗やバーのオーナーに支払い責任を課すように強く勧めていた、いわゆるEUレンタル指令を受けて導入されています。

PPLは、以下のように述べています。「政府は、最低限の改正に止めたいと思っている。EU指令にある公共の場でのラジオやテレビに

対する許諾使用料支払いの規定を儲けなかったことに失望している。」と述べました。

IMFは、アーティストが初めて放送を通じての法的な演奏権を得ることを歓迎していました。しかし、彼等はレコード会社から支払いを得られましたが、ラジオ局からは得られませんでした。

歴史的に、放送局から使用料を受ける権利を持つのはレコード会社でしたが、レコード会社は自発的にその32.5%を実演家に分配していました。

実演家が法的な権利を初めて持つ時、PPLはレコーディング・アーティスト組合(AURA)と放送収入はレコード会社と実演家で折半することを決めていました。このときから、実演家の団体は、ロビー活動をしました。規定にはレコード会社と実演家の割合は50%とは明記されず、「公正な」使用料収入とだけ書かれていました。

政府は、「伝統的に使用者から支払いを受けるのはレコード会社だけで、我々は製作者と使用者の関係を壊したくなかった。EU指令は英国政府にそのような規定を設けることを求めている」と述べています。

レコード業界がこの法案を変える最終的な機会は書類が上院で審議される時です。

政府のこの問題に対する熱意不足が故に、上院での審議は予告なしに行われるかもしれません。

(\*96.11.26 ビルボード)

## 会議メモ (主なもの)

(11月1日~11月30日)

- 11・8 レコード制作基準倫理委員会
- 11・12 再販問題プロジェクト
- 11・12 技術委員会
- 11・12 再販問題P・マーケティング委員会合同会議

- 11・13 デジタル問題対策会議
- 11・13 日本GD大賞幹事会
- 11・19 洋楽企画部会
- 11・20 業務委員会
- 11・20 洋楽部会
- 11・21 マーケティング委員会
- 11・25 音楽文化懇談会
- 11・26 洋楽宣伝専門部会
- 11・26 JASRAC委員会

- 11・26 著作権隣接権審議会作業部会
- 11・26 調査統計部会
- 11・28 Q盤セールプロジェクト
- 11・29 理事会

1996年10月レコード生産実績

数量：千枚・巻  
単位  
金額：百万円

表1. オーディオディスク

	10月実績						1996年(1月~10月)累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
C	邦洋計	14,647	38	75	9,323	19	75	136,437	37	101	85,912	19	102
	邦洋計	166	0	33	76	0	32	2,959	1	106	1,610	0	131
	邦洋計	14,813	38	74	9,399	19	74	139,396	38	101	87,522	19	102
D	邦洋計	13,468	35	103	22,887	47	103	142,580	39	112	247,146	54	113
	邦洋計	10,523	27	80	15,988	33	83	85,799	23	99	126,082	27	98
	邦洋計	23,991	62	92	38,875	80	94	228,378	62	107	373,228	81	108
D小計	邦洋計	28,115	72	86	32,210	66	93	279,017	76	106	333,058	72	110
	邦洋計	10,689	27	79	16,065	33	82	88,758	24	99	127,692	28	98
	邦洋計	38,804	100	84	48,274	100	89	367,775	100	105	460,750	100	107
アナログ	邦洋計	51	0	266	73	0	293	471	0	203	604	0	188
	邦洋計	65	0	583	95	0	558	245	0	173	396	0	144
	邦洋計	117	0	383	168	0	400	716	0	192	999	0	168
合計	邦洋計	28,166	72	86	32,283	67	93	279,488	76	107	333,661	72	110
	邦洋計	10,754	28	79	16,159	33	82	89,003	24	99	128,088	28	99
	邦洋計	38,920	100	84	48,443	100	89	368,491	100	105	461,749	100	107

表2. オーディオテープ

	10月実績						1996年(1月~10月)累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
カセット	邦洋計	2,039	98	81	2,197	98	88	18,092	99	90	16,103	98	93
	邦洋計	31	2	80	41	2	116	204	1	86	257	2	103
	邦洋計	2,070	100	81	2,238	100	89	18,296	100	90	16,360	100	93
カートリッジ	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	邦洋計	2,039	98	81	2,197	98	88	18,092	99	90	16,103	98	93
	邦洋計	31	2	80	41	2	116	204	1	86	257	2	103
	邦洋計	2,070	100	81	2,238	100	89	18,296	100	90	16,360	100	93

表3. 複合型CD (CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

	10月実績						1996年(1月~10月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦盤	8,217	100	166	2,548	98	114	61,397	100	153	19,658	98	113
洋盤	13	0	142	59	2	1,063	127	0	77	467	2	161
合計	8,230	100	166	2,607	100	116	61,524	100	153	20,125	100	114

表4. ビデオレコード

	10月実績						1996年(1月~10月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
ディスク	1,135	32	81	3,365	32	87	10,683	37	89	31,653	34	91
テープ	2,447	68	141	7,069	68	106	17,828	63	92	62,703	66	93
合計	3,582	100	114	10,434	100	99	28,510	100	91	94,356	100	92

表5. オーディオ/ビデオ/AV複合型レコード合計

	10月実績						1996年(1月~10月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	40,991	78	84	50,680	80	89	386,787	81	104	478,110	81	106
複合型CD	8,230	16	166	2,607	4	116	61,524	13	153	20,125	3	114
ビデオ	3,582	7	114	10,434	16	99	28,510	6	91	94,356	16	92
合計	52,803	100	93	63,721	100	92	476,821	100	107	592,591	100	104

備考 1. 本年実績は、会員会社「30社」の集計である。  
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

## レコード生産の推移

本号は、オーディオレコードの過去25年間の生産数量と金額を種類別に紹介します。

表1 オーディオレコード種類別生産数量の推移

単位：千枚・巻

西 暦	17センチ	25・30センチ	8センチCD	12センチCD	カセット	カートリッジ	オープンリール	総合計
1971(昭46)	91,867	58,444			5,837	14,844	297	171,289
1972(昭47)	90,913	61,137			6,770	13,535	239	172,594
1973(昭48)	93,741	78,520			10,591	15,606	242	198,700
1974(昭49)	97,901	83,758			11,154	12,790	111	205,714
1975(昭50)	92,706	84,665			14,090	12,160	44	203,665
1976(昭51)	105,091	94,661			20,187	11,388	14	231,341
1977(昭52)	91,655	92,408			25,612	9,055	15	218,745
1978(昭53)	103,084	93,144			34,855	11,699	6	242,788
1979(昭54)	110,338	88,466			46,220	15,087	2	260,113
1980(昭55)	104,360	90,583			57,107	22,858	0	274,908
1981(昭56)	87,685	80,849			60,627	26,152		255,313
1982(昭57)	78,736	73,180			61,115	36,489		249,520
1983(昭58)	79,218	69,518			64,618	33,113		246,467
1984(昭59)	71,128	68,211		6,365	60,917	21,973		228,595
1985(昭60)	62,138	62,376		20,638	60,694	13,826		219,673
1986(昭61)	60,566	45,483		45,120	62,517	8,355		222,041
1987(昭62)	46,250	27,745		64,992	68,925	5,893		213,804
1988(昭63)	27,420	12,044	25,557	89,980	76,074	3,415		234,490
1989(平1)	7,680	2,376	47,094	143,424	72,301	1,666		274,542
1990(平2)	1,606	726	61,820	169,129	56,541	672		290,494
1991(平3)	96	886	88,776	210,497	44,579	254		345,087
1992(平4)	31	982	110,559	222,671	38,853	47		373,142
1993(平5)	76	766	153,795	227,756	35,333	4		417,730
1994(平6)			138,271	241,699	29,860	0		410,450
1995(平7)		620 534	164,581	270,011	25,031			460,157

表2 オーディオレコード種類別生産金額の推移

単位：百万円

西 暦	17センチ	25・30センチ	8センチCD	12センチCD	カセット	カートリッジ	オープンリール	総合計
1971(昭46)	25,747	50,830			4,879	30,434	352	112,242
1972(昭47)	27,808	55,474			5,628	26,662	303	115,876
1973(昭48)	32,241	75,310			10,007	33,475	280	151,314
1974(昭49)	34,420	98,005			14,542	28,816	177	175,960
1975(昭50)	32,362	104,442			20,997	26,674	78	184,883
1976(昭51)	39,899	123,663			33,402	21,383	35	218,381
1977(昭52)	37,240	126,299			44,723	14,334	42	222,638
1978(昭53)	42,080	130,128			61,371	12,107	18	245,704
1979(昭54)	45,412	125,987			76,993	14,191	6	262,589
1980(昭55)	44,973	136,265			90,341	21,265	0	292,844
1981(昭56)	40,957	131,459			91,718	24,529		288,654
1982(昭57)	36,973	118,318			90,594	35,152		281,037
1983(昭58)	38,090	114,592			96,691	32,290		281,663
1984(昭59)	34,253	112,317		14,439	91,406	21,697		274,111
1985(昭60)	30,575	99,671		47,931	89,453	13,708		281,337
1986(昭61)	29,056	74,249		97,912	89,220	8,482		298,920
1987(昭62)	22,403	47,529		139,016	96,295	6,340		311,584
1988(昭63)	13,253	19,954	18,825	186,423	100,812	3,680		342,947
1989(平1)	3,507	3,635	29,756	257,005	87,752	1,678		383,332
1990(平2)	780	1,075	37,556	285,793	61,872	693		387,770
1991(平3)	43	1,441	53,967	345,829	47,714	259		449,252
1992(平4)	17	1,835	69,064	369,467	37,819	45		478,247
1993(平5)	43	1,479	97,710	382,754	31,689	4		513,679
1994(平6)			88,371	403,870	25,924	0		519,246
1995(平7)		1,081 881	100,565	443,096	21,982			566,524

備考1. 数値は、四捨五入により内訳と合計が一致しない場合があります。

2. アナログディスクは、'94年から17センチと25・30センチの区分がなくなりました。